

# 教科書を創造的に活用するために [3]



## —スキットのすすめ—

野澤重典 Nozawa Shigenori (長野県更埴市立西中学校)

英語を使えるようにする第一歩は、テキストで学習した表現を使えるようにすることである。これをどんな形で授業に実現させるか、そこに教師のアイデアと創造性が求められる。前稿では、ひとつのレッスンを取り上げ、どのような授業構成を仕組み、生徒の自己表現力を育成するかについて述べた。ここでは、レッスンあるいはセクションの題材内容を活用した「スピーチ」という形で紹介した。本稿では、スピーチと並んでもうひとつ、本校で継続的に実践している「スキット」について紹介する。

うなスキットにして発表させてみる。

**Mukami :** (玄関のベルを押して) Hello, Ken.

**Ken :** Oh, hello, Mukami. Come in.

**Mukami :** Thank you.

**Ken :** This is my room. Sit down.

**Mukami :** Thank you.

**Ken :** Would you like something to drink?

**Mukami :** Yes, please. I'd like some tea....

(以下テキスト通り)

### ① LET'S TALK Series を複合的に組み合わせるスキット

NEW CROWN には LET'S TALK と呼ばれるテキストがある。この Series は是非スキットにして演じさせたい。本校では、すべてのテキストで実践している。それも、いくつかの場面を複合的に組み合わせている。その実践例を紹介したい。

太字の部分がテキストを拡大した表現であるが、いずれも1年生での学習表現である。ほとんどの生徒が簡単にできる。テキストの語彙を多少置き換えることも積極的に奨励している。

#### (1) テキストを暗唱する。

スキットで演じるためにもテキストの暗唱は絶対条件である。短いテキストなので、2人または3人のペア・グループをつくり、暗唱する。暗唱ができたペア・グループは教師の前で発表する。その際、イントネーションや簡単なジェスチャーを取り入れるよう指導している。

#### (3) 場面設定をする

(2)を参考に、さらに発展させたスキットに仕上げたい。その時使えるのが、LET'S TALK Series を複合的に組み合わせる方法である。教師はテキストの表現が実際に使われるであろう場面を組み合わせ設定する。例えば、次のような一連の場面設定をする。

#### (2) テキストをちょっと拡大する。

例えば、3年生の LET'S TALK 1 は、「飲み物・食べ物をすすめるとき」の表現が学習ターゲットである。この場面は、「健がムカミに食べ物をすすめる場面」であるが、ムカミが健の家にやってきたことは容易に理解できる。そこで、その場面を次のよ

① AさんがBさんをお花見に誘う場面

② BさんがAさんの家に来る場面

③ AさんがBさんをお母さん(C)に紹介する場面

④ お母さんがBさんに食べ物や飲み物をすすめる場面

⑤ 電話で店員(D)に出前をたのむ場面

⑥ お金を払う場面

⑦ お花見に出かける場面

この一連の場面設定では、④が本テキストの場面である。ここでは、「誘うとき」「初対面のとき」「場

所を尋ねるとき」「電話で話すとき」「値段を聞くとき」などの機能表現が複合的に用いられ、ひとつの長いスキットとなる。次は生徒の発表原稿である。

(4) 生徒のスキット原稿

① AさんがBさんをお花見に誘う場面

**B:** (電話にでて) Hello.

**A:** Hello. Can I speak to B-san, please?

**B:** Speaking.

**A:** Oh, hello, B-san. This is A. How are you?

**B:** Oh, hello, A-san. I am fine, thank you. How are you?

**A:** I am fine too. Thank you.

**B:** What's up?

**A:** Are you free today?

**B:** Yes, but why?

**A:** We will go to Haruta park to see *sakura*. Would you like to join us?

**B:** Yes, I'd like to. What time?

**A:** Please come to my house at 10:30. OK?

**B:** Yes. See you then. Bye-bye.

② BさんがAさんの家に来る場面

**B:** (玄関のベルを押す) Hello.

**A:** Hello. Come in.

**B:** Thank you.

③ AさんがBさんをお母さん(C)に紹介する場面

**A:** Mother, this is B-san. B-san, this is my mother.

**C:** Hello, I am A's mother. Nice to meet you.

**B:** Nice to meet you too. I am A-san's friend. We are in the same club.

**C:** Oh, you are also a member of the tennis club! *Yoroshiku-ne.*

**B:** Yes, A-san is a good tennis player.

**C:** No, no. You are a good player.

**B:** No, no, no.

④ お母さんがBさんに食べ物や飲み物をすすめる場面

**C:** Sit down over there.

**B:** Thank you.

**C:** Would you like something to drink?

**B:** Yes, please.

**C:** We have some tea, orange juice, milk, cola... cola...

**B:** I'd like orange juice, please.

**C:** OK. Wait a minute, please.

**B:** Thank you.

⑤ 電話で出前をたのむ場面

**C:** A, it will be lunch time soon. Would you like something to eat?

**A:** Yes. I want to eat pizzas.

**C:** OK. Please call ABC Pizza shop.

**A:** All right... (電話をかける)

**D:** Hello. This is ABC pizza. Can I help you?

**A:** Yes, I'd like two pizzas, please.

**D:** We have cheese, sea food, tomato and mixed pizzas.

**A:** OK, one cheese pizza and one mixed pizza, please.

**D:** OK. May I have your name, please?

**A:** Kato Ichiro. That's my father's name.

**D:** I see. What time?

**A:** Please bring them at 12:00.

**D:** All right. See you then. Thanks a lot.

⑥ お金を払う場面

**D:** Hello. This is ABC pizza shop.

**C:** Oh, thank you.

**D:** Here you are.

**C:** Thank you. How much?

**D:** Three thousand yen, please.

**C:** Thank you very much. Bye-bye.

⑦ お花見に出かける場面

**A:** Let's eat pizza, and let's go to the Haruta Park.

**B:** Yes, let's.

このように、生徒たちは設定された場面で起こりうる会話を想像し、複合的に組み合わせられたスキットを演じている。生徒はノート等に原稿を書きたがる傾向があるが、それをすると大量の時間がかかる。そこで、配役のみを決定し、なるべく即興的に繰り返し練習しながらストーリーを作成するようにしている。

**C** : Yes, very bad.

**D** : Is it difficult to remove landmines?

**A** : What do you think?

**B** : Difficult.

**C** : I think so too. Very difficult.

**A** : Exactly. It is very difficult to remove the landmines. We can't do this!

**D** : Who can remove the landmines?

**B** : Specialists.

**A** : Good. Specialists are needed. They remove the landmines very slowly by hand.

**C** : That's dangerous work, isn't it?

**A** : Yes. And we need a lot of money.

**D** : Money? Oh, I can imagine that.

**B** : Hey, everyone! Let's make money and help to remove the landmines.

**D** : Good idea.

**C** : Great idea.

**A** : Let's work and get a lot of money.

**B, C & D** : Yes, let's work! Thank you.

## ②. 本課 LESSON を用いたスキット

本校では、LET'S TALK Series のみならず、本課でもスキットを実践している。2～4 課が終了したところで行うので、各学期 1 回程度になる。そして、そのスキットを学校祭で発表している。

生徒は、場面設定を工夫し、ピクチャーカードや CD など活用し、学習した内容をスキットにして発表している。大事なことはテキストからかけ離れないことである。そのためにピクチャーカードや CD の活用を勧めているのではあるが、この活動の主目的はあくまで学習した表現をたくさん使うことにある。紙面の都合で 2 年 LESSON 9, Landmines and Children の生徒作品のみを紹介する。

このように、テキストで学習した表現を、スキットの中で使えるようにしたいと願い、すべてのレッスンでスキット化を目指している。

※場面設定：地雷について学ぶ英語の授業

※登場人物：教師役(A)、生徒役 3 名(B, C, D)

**B** : Stand up! Let's start our English lesson.

**C, D** : Yes, let's.

**A** : Oh, you are very good students.

**C** : Yes!!

**A** : Today we will study about landmines.

**D** : Landmine? What is it?

**A** : Look. (ピクチャーカードを見せて) This is the picture of the landmines.

**B** : Huum.

**A** : Look at this boy. (次のピクチャーカードを見せる)

**C** : Wow, he is using crutches. What happened?

**B** : Landmines do this. Some people are injured by landmines.

**A** : Yes, and many others are killed by landmines.

**D** : That's terrible, isn't it?

## ③. まとめ

本校のスキットを参観された先生方から、よく次のような質問を受ける。①全部で何時間かけているのか、②原稿はだれが書くのか、③先生はどの程度指導するのか、④どうやればこんなに生き生きと表現するのか、⑤よく覚えらるね、等々の問いである。答えは大変難しい。結局のところ、場合によって違うので答えようがないというのが正直なところである。むしろ、とにかくやってみようという気持ちでまずやってみること、そして、実践を重ねること、それを大切にしているというのが一番適切な答えかと思われる。スキットの導入は「案ずるより産むが易し」である。